

- | | | |
|---|-----------|--|
| 1 | 審議会名 | 上田市消防委員会(平成24年度 第1回会議) |
| 2 | 日時 | 平成24年6月27日 午後2時00分から午後4時00分まで |
| 3 | 会場 | 上田市消防会館 3階大会議室 |
| 4 | 出席者 | 宮島会長、田中副会長、茂田委員、高木委員、滝沢修司委員、武井委員、中村委員、牧内委員、矢島委員 |
| 5 | 市側出席者 | 荻原消防部長、岩倉消防総務課長、小林中央消防課長、長谷川消防予防課長、松井消防警防課長、後藤南部消防課長、小林東北消防課長、深井川西消防課長、小林丸子消防課長、佐藤真田消防課長、木藤武石地域自治センター次長、越総務担当係長、丸山総務担当係長
(その他の出席者)上田市消防団 和田団長、矢島副団長、母袋副団長、福澤副団長 |
| 6 | 公開・非公開等の別 | 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 |
| 7 | 傍聴者 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成24年7月3日 |

協議事項等

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 開 会 | (荻原消防部長) |
| 2 | 諮 問 | 上田市消防団の団員定数等について
(上田市長代理 荻原消防部長) |
| 3 | あいさつ | (宮島会長) |
| 4 | 協議事項 | 【議題の概要】(進行:宮島会長)
(1) 諮問の内容について(岩倉消防総務課長) <ul style="list-style-type: none">上田市の現在の条例定数は、平成18年の市町村合併時における旧4市町村の定数の合算値を条例定数とし現在に至っており、今後更に少子高齢化も進行すると予想されている状況から、条例定数について検討が必要な時期になっていると思われる。市町村合併後、合併協議方針に基づき、分団拠点施設いわゆる分団詰所がない旧上田市以外の3地域へ分団拠点施設の整備を計画的に進めており、この建設に伴い、関係分団の車両配置等についても、検討が必要となっている。団員確保が大変困難になっているという現状を御理解いただくとともに、少子化が、今後更に進行していく将来を見据え、地域の安全・安心を確保できる団員定数について御審議いただき、答申をお願いしたいというものである。委員会については、本日を含め3回の開催を予定しており、次回は、現在、各分団において地元の自治会等と、団員定数等について協議していただいているので、その結果を基に事務局案を作成し御審議をお願いする予定で、2回目が実質的な審議と条例定数の決定、3回目が最終的な審議と答申書の作成という計画を進める予定である。
(2) 合併後の団員定数に係る検討経過及び他市の状況について(岩倉消防総務課長) <ul style="list-style-type: none">上田市における平成18年の合併後から現在までの団員定数等についての検討経過及び各分団における団員確保についての現状を説明団員の条例定数改正に係る県内他市の検討状況について、合併後または過去5年以内に条例定数の改正を行った市や、これから改正を予定している市への照会結果を基に、定数改正を行った理由、定数改正に当たり考慮した項目等について説明 |

(3) 上田市消防団の現状と推移について(丸山総務担当係長)

- ・ 現在の上田市消防団の団員定数、消防団の組織を条例、規則に基づき説明
- ・ 上田市消防団の団本部及び各分団の実員数、分団定員、充足率、車両配置等の現況を説明
- ・ 今回の会議資料作成にあたり、県内の他市に調査協力していただいた消防団に関するデータを基に、上田市と主に県内 19 市平均値を比較することにより、上田市消防団の現状と推移にどのような特徴があるのか、また今後 10 数年先の上田市人口の将来推計と平成 22 年からの上田市消防団の団員数の推移等を比較考察することにより、将来の上田市消防団の団員数見込のおよその状況及び団員確保に関する将来的課題について説明

【審議概要】

(委員の質問)

- ・ 資料 3 の団員充足率 92%、資料 4 の団員充足率 88.9%の違いは何か。

(事務局)

- ・ 資料 3 は分団の団員充足率 92%、団本部の団員充足率 40%であり、上田市消防団全体の団員充足率が資料 4 の 88.9%となっている。

(委員の質問)

- ・ 団本部の定員はどうなっているか。

(事務局)

- ・ 団本部 93 人、音楽隊 69 人の合計 162 人となっている。

(委員の意見)

- ・ 委員会としての団員定数の見直しを考えると、人口減少からの観点から見た資料の他、もうひとつ消防力に視点を置いた資料も欲しいと感じた。第 7 方面隊では、積載車をポンプ車に置き換えることにより、団員の減少を十分にまかなっていけるという説明を地区の消防団から聞いている。

(事務局)

- ・ 消防力の観点には、車両を動かすにあたり何人の団員が必要なのか、地域住民を避難させるために団員が何人必要なのか、また山火事、洪水、地震等、何を基準として消防力を設定していくか課題があり、今後検討はしていくが、難しい問題であることを理解して欲しい。

(委員の意見)

- ・ 例えば、連絡後 5 分以内あるいは 10 分以内には放水しているという基準を想定して、現状分析をした上で、これによって類焼は防げるはずだというひとつの基準を作ったらどうか。

(事務局)

- ・ 自主防災組織、消防団、常備消防が三位一体の形での検討が必要と考える。資料 1 で県内他市の定数改正に当たり考慮した項目の中にもあるとおり、署からの距離、機械力の配備状況等についても検討しながら進めていきたい。

(委員の意見)

- ・ 県内 19 市平均値との比較等の資料は出しているが、団員一人当たりの人口が非常に少なく、充足率も良い市や町もある。そういった所の検証も必要ではないか。
- ・ 全体的な上田市としての消防力の基準をどのへんにするかを出さないと、現状上田市として消防団員が何人必要なのかが出ない。理由付けが必要である。
また、人口推計でも少子高齢化となってきた災害弱者が増えているのに、助ける方も減らすのですかという部分もある。
- ・ 各分団の定数を一から見直し、それを積み上げた定数を出さないと、しっかりとした定数が出せない。大変な作業量となるだろうが、各分団のひとつひとつの事情を考慮しながら分団定数を決めて、総体の数を出さなければならないと考える。各自治会との協議結果を積み上げて、その結果を妥当なものか判断することはできるが、委員会で勝手に定数を決めることはできない。下のほうからの積み上げが必要である。

(事務局)

- ・ 資料については、これが全てとは考えていない。今回はあくまでも全体の状況、上田市消防団が他市と比べてどのような状況にあるのかを御理解していただきたくお示しした資料である。これから、いろいろな項目に配慮して資料を集めて検討し、皆様の御協議をお願いしたいと考えている。
- ・ 将来人口推計についても、あくまで仮説ではあるが、現実には少子高齢化は進んでおり、このままもし進んだとすれば、このような状況になるということを御理解いただくための資料である。
- ・ 自治会等との関係については、各自治会と各分団が、自分たちの地域を守るのに必要な団員数、10年後にはどうなのか、現在話し合いをされているところであり、それらの結果は自治会また各自治会の中の消防関係者の皆様の御理解をいただいているものと考えて進めてまいりたい。これら自治会等と各分団の協議結果が集まったところで、検討後にひとつの具体的な事務局案を出していきたい。そして、それらについて委員の皆様の御審議をいただきたいと考えている。

(委員の意見)

- ・ 各自治会の皆様が、どういう思いで消防団の人数を考えていただいているのか、きちんと聞いて、分団の方で納得した数字をあげてもらい、その積み上げが消防団の定数になれば確実に定数と実情が合うと考える。

(委員の質問)

- ・ そもそも定数を見直さなければならない理由は何か。見直さなければ何か問題があるのか。

(事務局)

- ・ 少子高齢化が進んでいるのは現実であり、いくら団員を確保しようとも、実際に地域に人材がいけないということであれば、団員確保はできないことは御理解いただきたい。
- ・ 決して現状維持がいけないということではなく、条例定数と実員数がかげ離れていると、各分団では団員確保に向けて多大な努力をする。しかし、本来の団活動や団員の私生活にまで影響するようなこととなれば、そのような団員定数が果たして消防団の利益となるか等々について御検討をいただきたい。皆様の審議の結果、現状維持ということもあり得ると思っている。

(委員の意見)

- ・ 各地域に合った必要人数の判断基準が必要であり、団員が減ったら、それを補うための機械力に置き換えて消防力を付けていくという方向で見えていかないといけない。自主防災組織の充実も含め「団員がいなくなった、こういう対策をした、だから定数を減らしても良いのでは、」という手法をとらないと住民の理解は得られないと考える。
- ・ 自治会等と各分団との関わりには、各地域により違いがあり一概には言えない。現実を踏まえていただきたい。あと2回の会議での答申にはかなり無理があると思う。
- ・ 団長のお考えを伺いたい。

(団長)

- ・ 合併時、その当時から欠員の状態から始まった。そもそも、それぞれの団の定数が根拠のあるものなのかということから始まっている。女性団員の積極的な勧誘、各分団での手法を凝らした広報活動、また自治会の皆様にもお願いして団員の勧誘をしているが、団員確保は非常に厳しい情勢になっていることは間違いない。今、それぞれの分団をお願いしているのは、皆様方の分団にはいったい何人の団員が必要なのか、もう一度考えてもらいたいということであり、まだ中間報告の段階ではあるが、現状の定員より多く希望している分団も出てきており、全体に大きく定員の減数となることはないと思われる。また、各分団から出てきた定員数については、かなり根拠のあるものと考えており、今、団幹部も本気で取り組んでいるところである。

5 その他
(事務局)

- ・ ポンプ操法、ラッパ吹奏大会のお知らせ
7月8日(日)上小大会 上堀グラウンドで開催
7月29日(日)長野県大会 上田古戦場公園多目的グラウンドで開催
- ・ 次回の委員会は10月頃の予定

6 閉 会 (荻原消防部長)

- * 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。
- * 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。